PORT OF THE YEAR 2023

情報誌「港湾」の読者が選ぶ
ポート・オブ・ザ・イヤー 2023に
厳島港［広島県］が決定！

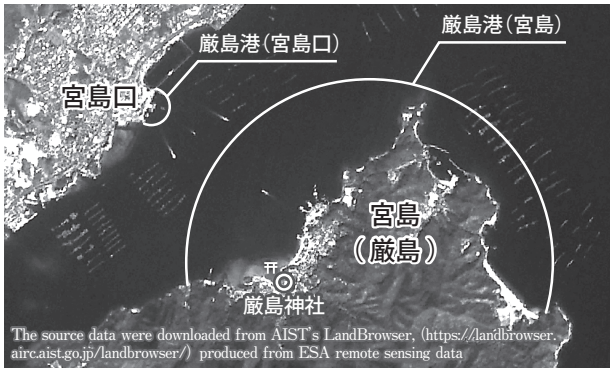
（公社）日本港湾協会では、みなとに関する優れた実績や活動により、わが国の港湾・臨海部の活性化に寄与し、「みなとの元気」を高めた港湾を読者の投票により、ポート・オブ・ザ・イヤーとして選定し、表彰しています。今回は、情報誌「港湾」9月号誌上において投票受付を開始し、11月30日に締め切りました。

情報誌「港湾」の全国の読者の方々から投票をいただきありがとうございました。集計の結果、厳島港をポート・オブ・ザ・イヤー 2023に選定いたしました。

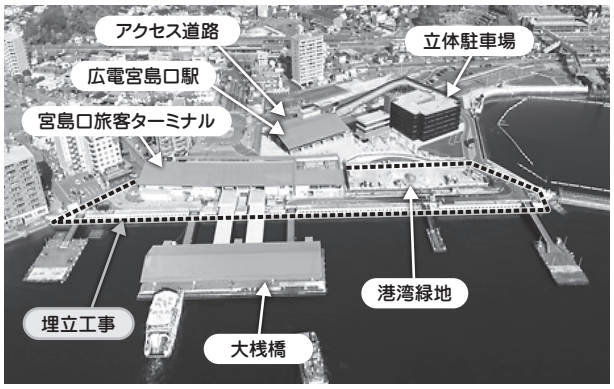
ポート・オブ・ザ・イヤー 2023
厳島港

■厳島港の概要

厳島港は、日本三景と世界文化遺産の厳島神社を有する宮島の観光港、かつ島民の生活航路を支える生活港として重要な役割を担っており、年間船舶乗降人員は14年連続（平成20年～令和3年）で全国1位と、国内外の多くの方に利用されています。



厳島港の港湾区域



宮島口の整備状況　写真提供：広島県

同港の宮島口地区においては、令和2年に新たな旅客ターミナル･桟橋が供用し、観光案内所、物販スペース、宮島の文化・歴史を発信する情報センター等の施設とともに、世界文化遺産の玄関口に相応しい施設に生まれ変わりました。同年には「みなとオアシスみやじま・みやじまぐち」に登録され、令和5年度末には観光交流拠点としての新たな港湾緑地が完成予定であり、各種イベントも予定されています。

厳島港で各国首脳を歓迎する廿日市市長
出典：SUMMIT PHOTO 2023（g7japan-photo.go.jp）

また、令和5年5月に開催されたG7 広島サミットでは、各国首脳が厳島港を利用して宮島を訪問されたことで世界中から注目を集めました。サミット翌月の宮島来島者数は、同月過去最多の31万人を記録し、以降も好調に推移しています。

「ポート・オブ・ザ・イヤー 2023」に選ばれた厳島港に対しては、令和6年1月24日（水）の表彰式において、賞状及び楯を授与いたします。また、「港湾」3月号に同港の「みなとの元気」紹介記事を掲載します。